

過去を忘れてはいけない 未来へ平和をつなぐ

■平和を次世代に

戦争により多くの命を犠牲にしたこと。それは、今から70年以上前の変わらない真実です。そのような状況で生きて人がいて、その過去こそが現代につながっています。

永井さんをはじめ、当時を生き残った方は「戦争はしてはいけない」と強く伝えてくれました。戦争を体験した方の思いや願いを知り、次の世代へ語り継ぐことが、今の私たちにできることなのかもしれません。

茨城町戦没者追悼式

先の大戦において尊い犠牲となられた町関係戦没者の御霊に対し、追悼の意を捧げるとともに、町をあげて平和を祈念し、町発展の決意を新たにするため、町戦没者追悼式を実施します。

- ▶日時 9月22日(金)
午前9時15分受付 午前10時開式
- ▶場所 「やすらぎの丘」慰霊塔前
茨城町小堤967番地
※雨天の場合は、町中央公民館大ホール
駐車場は役場駐車場をご利用ください。

【問合せ先】 社会福祉課 ☎029-240-7112 (直通)

終戦72周年企画

映画 追憶 × 漫画 ペリリュー 共同企画
平和への思いを紡ぐ、ペリリュー島の記憶

終戦から72年を迎える今夏、ペリリュー島の戦いをテーマにした映画「追憶」のDVD発売、漫画「ペリリュー 楽園のゲルニカ」第3巻の発売を記念して、終戦72周年企画「平和への思いを紡ぐ、ペリリュー島の記憶」の開催が決定しました。

原画展開催情報

- ▶日時 7月28日(金)から連日
午前9時～午後5時
(最終入場 午後4時)
- ▶場所 筑波海軍航空隊記念館 (笠間市旭町654)
- ▶料金 大人500円、子ども350円
※団体等各種割引あり

【問合せ先】 筑波海軍航空隊記念館 ☎0296-73-5777



映画上映情報

- ▶日時 8月1日(火)～8月28日(月)
午前10時、午後1時、午後4時、午後7時
※イベントがある日は休映になります。
詳細は 劇場にお問い合わせください。
- ▶場所 笠間市地域交流センター (笠間市友部駅前1-10)
- ▶料金 (前売り) 1,000円
(当日) 大人 1,300円
シニア (65歳以上) 1,000円
子ども (高校生以下) 800円

【問合せ先】 笠間市地域交流センターともべ ☎0296-71-6637

小堤地区にある慰霊碑は、昭和45年、戦没者の冥福を祈るとともに、二度と戦争が起こることがないようにという願いから建立されたものです。

残された遺族の思い

第二次世界大戦では多くの人が平和を願い亡くなった日本に家族を残して...



■帰って来なかった父

昭和16年、当時1歳だった丸山昇一さんを残し、父の丸山新清さんは出征しました。「父は終戦後、米軍の捕虜となり、パプアニューギニアでの収容生活の後に、マラリアが原因となり亡くなりました。終戦後も捕虜となった日本人は、体が衰弱し食料もろくに食べることができなかつたようです。」

昇一さんは、帰還した方の話を聞いて、当時の様子を知ることができたと言います。「捕虜となった日本人は、毎日衰弱して亡くなっていく仲間を埋葬することが仕事であったと聞きました。過酷な毎日を送っていたと思います。」



第六十七警備隊
丸山新清 海軍一等兵曹

引揚げ船は3か月に一度程度であったそうです。「父も『次の船で帰れる』という話であつたらしい。しかし、父はその船に乗っていません。」



茨城町遺族連合会会長
丸山昇一さん (76)

新清さんは国に帰ることができず、家族に会えない寂しさを抱え、死を迎えたのかもありません。「幼かった私は、父の記憶がありません。父が生きていてくれたら...そう思う場面は何度もありました。残された母と私も苦労しました。第二次世界大戦の国民の犠牲者は310万人と言われます。想像を絶する程の悲惨な戦争は、理屈なしにするものではありません。」

■家族も辛く苦しかった

「生まれて半年で父は出征し、その2年後の昭和18年、戦地での銃撃が原因でパプアニューギニアの野戦病院で亡くなりました。父は国のために亡くなったのです。」

新堀弘子さんは、父である新堀徳次さんの話を伝えてくれました。

「当時幼かった私は、父の記憶はあまりありませんが、母が父の話を聞かせてくれました。『父はとにかく優しい人であつた』と。」

幼少期は祖父母に育てられてきたそうですが、母と二人で暮らすようになってからは、苦労して暮らしてきたと言います。

「二家の働き手をなくした家族は、男性と同じように力仕事を...



歩兵第百二連隊
新堀徳次 陸軍兵長

事をして働く女性もたくさんいたんです。残された家族も、辛く苦しい経験をしました。」

弘子さんは、あれから70年近く経った今でも、徳次さんが亡くなったニューギニアに行き、慰霊祭に参加します。「父が亡くなったのは、どんなところなのか。この目で確かめたいという思いで、現地に行きます。父に伝えたいのは『会いに来たよ』ということ。父に思いが伝わっているといいですね。」

尊い命を犠牲にした過去があつて、平和な今があることを忘れてはいけません。



茨城町遺族連合会女性部部长
新堀弘子さん (76)